

第7次尾鷲市総合計画等の策定に係る 「市長インタビュー」要旨（令和3年2月修正版）

～修正の経緯について～

令和2年8月に、総合計画策定における市長の思いや考え方を十分反映させるため「市長インタビュー」を実施し、その後、「市長インタビュー要旨」を尾鷲市ホームページで公開したところですが、令和2年12月の第4回尾鷲市議会定例会において議員から、本インタビュー要旨における「市民に伝わっていない点や誤解があると思われる点」について一般質問がありました。このことは、情報を公開するにあたって反省すべき点であり、要旨につきまして今一度見直しを行い、市民の皆さまに疑義・誤解を与える部分などについて必要に応じて付記・修正させていただきました。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

「まちづくりアンケートについて」

- 私が市長になって3年経過したが、市民の皆さまのまちづくりアンケートにおける「重要度や満足度」に関する調査の結果はほぼ変わっていない。
- 市民の皆さまと行政とが、どうパイプを固く太く結び付けていくかが重要である。
- 市民の皆さまの思いを受けて、その思いをどうやって叶えるかが、市役所の仕事だと思っている。
- なかでも「重要度が高く満足度が低い」項目のうち①地域医療体制の確保、②財政の健全化、③新しいひとの流れの創出 について以下のように考えている。

①「地域医療体制の確保」

- 地域医療については、命にかかわる問題であり、その命を守るためのもとだと考えている。
- 尾鷲の優れているところ、私はそれをオンリーワンの「とんがり帽子」と言っているが、この部分をきちんと育て、そして発展させなければいけない。
- 私は尾鷲総合病院ニアイコール尾鷲市と言っており、尾鷲総合病院がなければ尾鷲市の存在はないと思っているし、地域医療を確保できる体制、すなわち市民の皆さまの安全が完全に崩れてしまうと考えている。
- 先ずは命を守るため、また、全てのお客様の満足度を高めるため、尾鷲の「とんがり帽子」として、地域医療体制の確保は重要であり、医師・看護師・技師（人）・医療機器（物）の充実が必要である。そのため、財源（金）の見直しをつけるため、新改革プランに沿って、尾鷲総合病院を維持・存続させていく。

- 新改革プランの中では、人口減少に伴い一般病床の削減などはあるものの、不採算部門であっても、小児科・産婦人科・救急医療などの、命を守るための、地域医療にとってなくてはならない診療科については、縮小は考えていない。

②「財政の健全化」

- 市長に就任してから3年間やり続けている財政改革だが、本市の財政を立て直すため、経費の洗い出し、見直し、財政再建計画を策定するなどの取り組みを進めている。
- 市民サービスを整えながら市政を運営していくためには、先ず財政を健全化させないといけない。
- そのために痛みを伴う改革として、市民の皆さまに対しては、各種団体への補助金の削減、また、施設等の使用料の改定などを行い、他には職員数の削減や手当の削減、さらには清掃業務の自前化など経費の削減を行った。
- そういった改革等の取り組みを行ってはいるものの、市民の皆さまから「財政状況がわかりにくい」、「市職員の数が多い」などの声を少なからずいただいております、財政に関する情報や、財政健全化の取り組みを市民の皆さまと共有し、一層のご理解・ご協力を得られるようにすることが重要であると考えています。

③「新しいひとの流れの創出」

- 少子高齢化や産業の衰退から、急激な人口減少が進んでおり、新卒者が就職できる場所も少ない。移住定住事業も一生懸命実施しているが、社会減のスピードはそれを上回っているため、交流人口によって新たな人の流れを創出する仕掛けが必要である。
- 人の流れの創出のためには、コロナ禍の地方部への注目が高まる中、尾鷲の自然などの魅力を活用・発信し、先ずは来てもらうことで交流人口を高め、尾鷲の良さを知っていただきながらゆくゆくは定住に繋げていきたい。
- また、中部電力の跡地を活用したSEAモデル構想により、産業を興すことで雇用を創出し、サービスによって交流人口を高める術を考えていきたい。

「計画を策定する際に重視する点」

- 仏を造っても、魂を入れなければ意味がない。計画を策定することは重要であるが、それをどのように実行するかが更に重要である。実現性・実効性があり、かつ市民の皆さまに理解され納得される、分かりやすい内容の計画として市民の皆さまにPRできる形のものにしなければならない。

- 計画を作った後、どうやって実行し、効果・結果がしっかり現れるかが重要である。
- 人口減少が進む中でも市政を維持するため、現役世代と高齢者のバランスを取り、社会減を緩やかにする仕掛けが重要であり、そのため、同時に策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容も重視する必要がある。
- 総合計画を軸とした行政経営システムの中でPDCA（P：プラン＝計画 D：ドゥ＝実行 C：チェック＝評価 A：アクション＝改善）サイクルを活用し、6次計画より一歩踏み込んだ総合計画にしなければと考えている。

「おわせSEAモデル構想について」

- 本市にとって最重要・最大にして、これが出来なければならないものである。
- 少しずつでも実現していくことが重要であり、交流人口の目標を少しずつでも達成・具現化していかなければならないと思う。そのために人が集まる中核となる部分は失敗すれば大変なこととなるためしっかり議論し、サテライト（周辺に配置された施設）の部分はアイデアレベルでもどんどん意見を出し合い、構想に合うものについては順に実現できれば良いと思っている。
- プロジェクトS（サービス）としては、親子3世代をターゲットとし、安全・安心に過ごせる場所として、交流人口を高めると同時に市民の皆さまの憩いの場であるがための場づくりをしていきたい。

「市ホームページ内「市長の部屋」における課題について」

- 市ホームページ内の「市長の部屋」における ①産業振興・雇用の場の創出による経済基盤の整備、②若者たちが定住したいと思える「子育て環境と教育環境の整備」の推進、③高齢化社会に対応した「くらしの安全・安心を守る」まちづくりの推進 については、子ども～現役世代～高齢者と全世代に及ぶことであり、一体となって並行に進める必要がある。
- それぞれの現状・課題を認識したうえで、何をすれば満足度の向上につながるのかを考え行動しなければならない。

①「産業振興・雇用の場の創出による経済基盤の整備」

- 若者が働ける場所を創出するため、未来へ繋げる経済基盤を整えるため、中部電力跡地の活用を成功させることは、今後の尾鷲市を十分維持・継続できるかの大きなターニングポイントと考えている。

②「若者たちが定住したいと思える「子育て環境と教育環境の整備」の推進」

- 「子供は地域の宝物 育てる・守るは地域の役目」であり、子どもをすくすく育てるためのイベント・支援等のソフト面に併せ、賛否両論あるが、学校という集団生活・教育環境を充実させるための学校統廃合などのハード面での環境整備も必要だと考えている。

③「高齢化社会に対応した「くらしの安全・安心を守る」まちづくりの推進」

- 高齢化社会の課題については、旧尾鷲町以外の地区センター管内の困り事としてよく言われるのは移動手段の確保である。ふれあいバスの運行は2～3時間に1本となっていることから、集落支援員・民生委員を充実させるなどを考えているが、今後いかに地域包括ケアシステムにおける見守り・ふれあいの場・移動・医療・買い物・介護などのサービスを強化し、困っている高齢者が安心して暮らせるまちづくりができるかを検討する必要がある。

「国土強靱化地域計画について」

- 本市の標語に「津波は逃げるが勝ち」とあるように、従前からの本市の防災減災対策の取り組みの中で、災害時の移動手段は、基本的には歩いて逃げることであることは認識している。
- 有事の際に備えるための国土強靱化において、重要となるのは先ずは道路網の整備と考えている。財政が厳しいなか、市内にはガタガタで狭い道があるため、国土強靱化地域計画に「命を守るための」路面の整備・補修等を盛り込み、国の補助を活用できればと考えている。
- 次に地震・津波・台風・豪雨・異常気象等を想定し、避難場所・避難所の確保も重要となる。それに加え、その後の仮設住宅の建設など、災害時を想定して十分な体制を整える必要がある。まちの被害の軽減も重要であるが、どのようにして命を守るかが最も重要である。そのために先ずは道路網の整備が必要であると考え。

「SDGs、society5.0などの新しい動きについて」

- 新しい動きについては、計画に関連付けるべきと考えている。SDGsの内容は尾鷲でも当然推進すべき事柄であり、計画に入れ込むべきと思うが、重要なのはそれにより具体的に何を実施するかであり、形だけのものにしないことである。
- society5.0についても、AIの活用等は今後の社会において当然重要なものであり、計画への反映をすべきである。SDGsやsociety5.0などをうまく活かして持続可能なまちを作り上げることが重要と考えている。

- 本市におけるSDGsとしては、17ある目標のうち、①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑥安全な水とトイレを世界中に、これらに取り組むことは当たり前であり、それ以外の目標の中で優先順位を付けるとするならば、⑧働き甲斐も経済成長も、⑩住み続けられるまちづくりを、に率先して取り組む必要がある。
- ⑧及び⑩の目標を達成するためには、まちづくりアンケートにおける重要3項目（地域医療体制の確保・財政の健全化・新しいひとの流れの創出）に取り組むことが重要であると考えている。

「次期総合計画の将来像や理念・キーワードについて」

- やはり実効性があり、分かりやすい計画であることが重要であり、計画の中身を実現させるには市民の皆さまの協力が不可欠であると考えている。そのためにも市民の皆さまに理解されるように、分かりやすいものにすることが重要であり、それを繰り返しPRし、納得してもらうことが重要である。
- 何かの内容を特化させた「とんがり帽子」のものを入れることも必要であると思う。その活動を市民の皆さまにPRし、共有しながらともに実現し、尾鷲市の今後「興味」・「夢」を持ってもらえるようにすることが重要である。
- 市民の皆さまに「夢」を与え、そしてそれを何年後かにきちんと作り上げ、実現するために、時間軸を意識した計画としなければならない。